

問1	戦国大名が自らの領国に「分国法」を制定した主な目的や歴史的背景の説明として、最も適切なものはどれですか。（2026年 岩手県公立入試 類似）			
	1. 室町幕府の将軍の権威を高めるために、全国の守護大名に共通の規律を守らせるため。	2. 外国からの侵略に備えるために、全国の武士を一元的に組織化して国防を強化するため。	3. 朝廷の許可を得て、幕府の承諾なく独自に隣国の領地へ侵攻できる権利を確保するため。	4. 家臣が主君に打ち勝つ下剋上の風潮の中で、家臣の行動を取りしめり領国支配を固めるため。
問2	1543年、九州南方の種子島に漂着した船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）			
	1. スペイン人	2. イギリス人	3. ポルトガル人	4. オランダ人
問3	1543年に種子島へ鉄砲が伝来したことは、その後の戦国時代の戦い方や社会にどのような変化をもたらしましたか。最も適切な説明を選んでください。（2024年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	2. 鉄砲の製造に高度な技術が必要だったため、戦国大名同士の争いが一時的に停止した	3. 弓矢や刀剣が全く使われなくなり、すべての兵士が鉄砲のみを装備して戦うようになった	4. 騎馬武者による一騎打ちが戦いの主流となり、個人の武勇がより重視されるようになった
問4	豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）			
	1. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐる北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。	2. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。	3. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	4. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマル憲法が制定された。
問5	加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。（2026年 高知県公立入試 類似）			
	1. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。	2. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	3. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を輸入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。	4. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の将軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。
問6	戦国時代において、戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や民衆を統治するために独自に制定した法律を何と呼びますか。江戸時代に幕府が定めた武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領土の実情に合わせて定めたものを指します。（2021年 三重県公立入試 類似）			
	1. 分国法	2. 武家諸法度	3. 公事方御定書	4. 御成敗式目
問7	「朝倉孝景条々」や「甲州法度次第」といった分国法の中に見られる、戦国大名による統治の具体的な特徴として正しいものを一つ選びなさい。（2023年 福井県公立入試 類似）			
	1. 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた	2. 将軍の許可なく大名同士が婚姻を結ぶことを禁じ、参勤交代の義務を明文化した	3. キリスト教を保護し、ヨーロッパとの自由貿易を領国内の全ての商人に奨励した	4. すべての土地と人民は天皇に帰属するという公地公民の原則を再確認した
問8	戦国時代の社会や法律について説明した文章として、「朝倉氏が城の建築を制限する規定を設けたことや、武田氏が喧嘩両成敗の原則を定めたことなど、大名が独自に定めた規定が存在した」という記述があります。この記述の説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 岩手県公立入試 類似）			
	1. これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。	2. これは江戸幕府が成立した直後に各大名を統制するために出された武家諸法度に関する記述である。	3. これは鎌倉幕府が御家人同士の土地の紛争を裁くために制定した御成敗式目に関する記述である。	4. これは室町幕府が守護大名の権力を強めるために制定した建武式目に関する記述である。
問9	戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）			
	1. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。	2. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。	3. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。
問10	戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）			
	1. 連座（縁座）	2. 奉公と恩賞	3. 喧嘩両成敗	4. 目目安箱
問11	ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）			
	1. スエズ運河	2. パナマ運河	3. 喜望峰	4. マゼラン海峡
問12	日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）			
	1. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。	2. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	3. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	4. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
問13	1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着し、日本に初めて鉄砲が伝えられた場所はどこですか。その地理的な位置関係を示す説明として正しいものを選んでください。（2024年 大阪府公立入試 類似）			
	1. 四国地方の南部に位置し、太平洋に面した高知県の土佐清水	2. 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	3. 九州地方の北部に位置し、大陸との交流が盛だった福岡県の博多	4. 関東地方の東部に位置し、東京湾の入り口にあたる千葉県のパリ

答え合わせ・解説

問1	答え 4 家臣が主君に打ち勝つ下剋上の風潮の中で、家臣の行動を取りしめり領国支配を固めるため。	戦国時代には、家臣が主君に打ち勝つ「下剋上」の動きが社会全体に広がっていました。そのため戦国大名は、家臣の勝手な行動や争いを防いで取りしめり、自身の領国支配を安定させる目的で独自の分国法を定めました。
問2	答え 3 ポルトガル人	16世紀半ばの1543年、種子島に漂着した船に乗っていたポルトガル人によって鉄砲（火縄銃）がもたらされました。この出来事は、その後の日本の戦術や城郭の構造、さらには社会構造そのものを大きく変える契機となりました。当時の日本は戦国時代であり、新しい武器としての鉄砲は各地の戦国大名の間で急速に普及していきました。
問3	答え 1 足軽による集団戦法が普及し、強力な攻撃を防ぐために城の造りがより堅固になった	鉄砲の伝来と普及は、戦国時代の合戦のあり方を根本から変えました。それまでの騎馬武者中心の戦いから、鉄砲を装備した足軽による組織的な集団戦法へと移行しました。また、鉄砲の威力に対抗するために、石垣を高く積み上げ、厚い壁を持つ堅固な城郭が築かれるようになるなど、建築技術にも大きな影響を与えました。
問4	答え 3 ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	日本の安土桃山時代における朝鮮出兵（1592年）と比較して、バスコ・ダ・ガマのインド航路到達は1498年（15世紀末）の出来事であり、約100年ほど早い時期に当たります。他の選択肢であるフランス革命は18世紀末、南北戦争は19世紀、ワイマール憲法の制定は20世紀の出来事であり、いずれも日本の江戸時代後期から大正時代にかけての事象です。
問5	答え 2 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍勢力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。
問6	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は自らの力で領国支配を確立する必要性がありました。そこで、領地内の紛争解決や家臣の統制を目的として、独自の法である分国法を制定しました。代表的なものに、武田氏の「甲州法度之次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがあります。
問7	答え 1 家柄に関わらず有能な人材を登用するルールや、許可なく城を構えることを禁止する規定を設けた	戦国大名は生き残りをかけて、実力主義による人材登用（朝倉孝景条々など）や、家臣が勝手に拠点を作って反乱するのを防ぐための城郭の制限を行いました。選択肢にある「婚姻の禁止や参勤交代」は江戸時代の武家諸法度の内容であり、「公地公民」は飛鳥時代の制度です。
問8	答え 1 これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。	朝倉氏の城の建築制限や武田氏の喧嘩両成敗などは、戦国大名が家臣を取りしめり領国を支配するために定めた分国法の実例となります。江戸時代の武家諸法度とは時期や目的が異なります。
問9	答え 3 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱業の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問10	答え 3 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問11	答え 3 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問12	答え 2 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	元軍の襲来である「元寇」は13世紀後半（鎌倉時代後半）、足利義満による「日明貿易」の開始は15世紀初め（室町時代）、そしてフランシスコ・ザビエルによる「キリスト教伝来」は1549年（戦国時代）です。それぞれ、鎌倉・室町・戦国の各時代を象徴する重大な外交上の出来事です。
問13	答え 2 九州地方の南端に位置する鹿児島県の離島である種子島	1543年、九州の南にある種子島にポルトガル人が漂着した際、島主の種子島時堯が彼らから火縄銃を購入したことで日本に鉄砲が伝来しました。この出来事をきっかけに、日本国内でも鉄砲の製作が行われるようになり、全国へ普及していきました。